

## 花 火

### 着衣着火に注意を

(2016年8月9日掲載原稿)

花火は夏の風物詩ですが、全国の消費生活センターには、毎年事故の情報が寄せられています。

事例を見ると、手持ちタイプの花火では「火花がかかった」「持っていた部分が暴発してやけどを負った」などの事故が起こっており、打ち上げ花火など飛ばすタイプでは、件数は少ないものの「目に当たって失明した」などの重篤な事故も起こっています。

花火で遊ぶときには注意事項を守ることが重要ですが、これが守られていないために起こったと思われる事故が少なくありません。

「点火にマッチやライターを使わず、ローソクや線香を用いる」「打ち上げ花火を絶対にのぞき込んではいけない」「変形しているものは異常燃焼などの危険があるので使用しない」など、花火のパッケージや本体に記載されている注意事項を必ず守りましょう。

遊ぶ前に明るい場所で商品をチェックし、説明書などをよく読んでおきましょう。子供は大人が予想もしない動きをするので、花火をする際は必ず保護者などが付き添い、子供の行動をよく観察して、危険な行為はやめさせましょう。

万が一事故にあった時は、すぐに医師の診察を受け、事故品などが残っていた場合は捨てずにとっておきましょう。事業者に申し出ることにより、賠償に関してだけでなく、商品の改善につながることもあります。

また、花火では着衣着火の事故もあります。衣服の袖や裾が火に触れないよう気をつけましょう。火が移りやすい素材の服やサンダルなど露出が多い靴を避けるなど、服装にも注意が必要です。

花火は、大人も子供も手軽に楽しむことができる反面、火や火薬を用いるため危険が伴うことを理解し、取り扱いには十分注意しましょう。